No. J2315

中国近代法の継承をめぐる戦後中国・台湾の動向

埼玉大学大学院 人文社会科学研究所

准教授

久保 茉莉子

本研究では、裁判文書や法学専門書・雑誌を主要史料とし、日中戦争期から戦後にかけての中国・台湾における刑罰の執行状況や刑法をめぐる議論・学説を分析した。

2023年度は、新型コロナウイルスの感染拡大以来困難になっていた大陸中国での現地調査を実施することが可能となったため、国内や台北、スタンフォードでの史料・文献調査に加えて、上海や南京での調査を試みることができた。実は、報告者が本研究助成金に応募した2022年の段階では、中国での現地調査ができない状況が続いていると仮定して、中国を訪れなくても実施可能な研究計画を立てていた。しかし、2023年春頃から、徐々に中国の文書館・図書館で調査ができる見通しが出てきたため、当初の計画を若干変更して、中国での現地調査をやや重視する形で研究活動をおこなった。各地での史料・文献調査では、いずれも大きな成果を得ることができたが、やはり2023年度についていえば、上海市檔案館に行けたことが非常に重要であった。日本や台湾ではどうしても得られなかった情報を得ることができた。また、上海市檔案館の史料を用いることで、今後さらに様々な角度から研究を展開していけると確信できた。

2023年度は、前年度に比べて対面式の学会参加のために海外に行くこともかなり増えた。台北、上海、南京、ケンブリッジ、シアトルといった各地で大小様々な規模の学会・研究会に参加し、中国語や英語で発表した。コロナ禍の中で、インターネットを利用した会議も十分意味があると感じてはいたが、やはり現地の空気を直接肌で感じ、人々と交流をしながら研究を進めることで、より様々な角度から分析対象を見ることができると実感した。